

駿河湾の深海魚 (12)  
トゲスミクイウオ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武

トゲスミクイウオ (*Bathysphyraenops simplex*) は、スズキ目、スズキ亜目、クシスミクイウオ科、トゲスミクイウオ属に含まれ、日本近海からは本種1種が知られています(図1)。また、本種と近縁で日本近海に生息するクシスミクイウオ属の3種を含めた4種は、スズキ目に含まれる日本近海産の1,500種以上の魚類中で希少な遊泳性深海魚類として知られています。トゲスミクイウオは、以前はクシスミクイウオ属に含まれていましたが、その後の研究により、下鰓蓋骨にある棘を2本有していることが明らかにされ(クシスミクイウオ属では1本)、現在トゲスミクイウオ属に属しています。

本種の体は側偏し、背鰭は第1と第2の2基を有しています。胸鰭は、長く臀鰭基底始部を越えています。体色は一様に暗褐色であり、体を覆っている鱗はやや剥がれやすい櫛鱗です。本種は、日本近海では駿河湾、熊野灘、沖の鳥島などを含む太平洋、インド洋、大西洋の深海域から知られています。日本近海から採集される本種の体長は、100mm以下の個体が多く、どの位の大きさまで成長するかは不明です。

30年以上も前のことですが、著者の久保田は日本ルーテル神学大学の上野輝彌教授(当時)と共に本種の生物学的な研究を行いました。駿河湾にも生息する口の中が黒いスミクイウオという魚は、2つの背鰭を有してその体型は本種に似た特徴があり、一方、本種の下鰓蓋骨には目立つ数本の棘(トゲ)を有することから日本近海から初記録なのでトゲスミクイウオと和名を付けました。

駿河湾内では毎年春季と秋季の年2回サク



図1. トゲスミクイウオ  
BL: 51.3mm, 1983年6月6日 サクラエビ網混獲

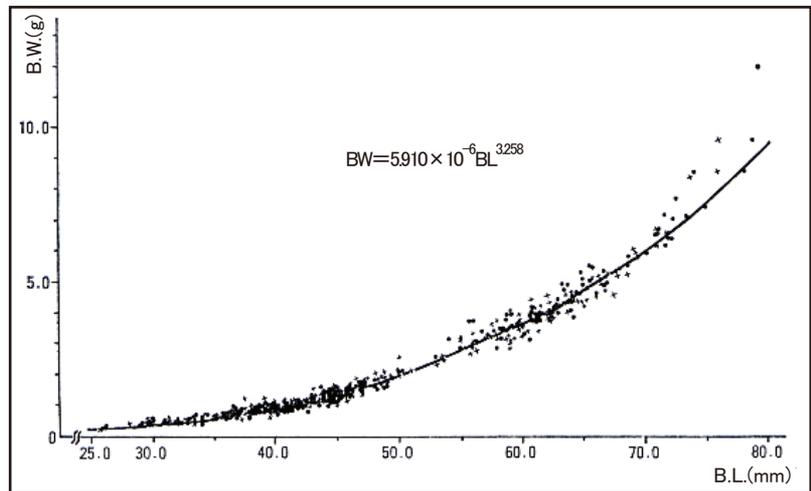


図2. 体長(BL)と体重(BW)の関係  
サクラエビ混獲標本(472個体)  
●: 雌、×: 雄 (Kubota *et al.*, 1991より引用)

ラエビ漁が行われていますが、湾奥部海域で、本種が1975～1979年の春季(3～5月)に深さ70～150mを曳いた網にサクラエビと共に多くの個体が獲れたことが何回かありました。得られた472個体の体長、体重、性別などを調べたところ、体長範囲は24.1～79.5mmにあり、体長40mmと60mmを中心に2つのモードが見られました。また体重範囲は0.25～12.0grでした。性別比は、1:1.05で雌雄間で大きな差はありませんでした。図2は、得られた本種の体長(BL)と体重(BW)の関係を示しています。その関係式は、 $BW=5.910 \times 10^{-6} BL^{3.258}$  ( $r=0.990, n=472$ ) で表わされました。